

令和4年度 佐用町 認知症地域支援推進員活動報告

認知症地域支援推進員について

- 1 認知症地域支援推進員：5名
- 2 認知症地域支援推進員の役割

認知症施策推進大綱に基づき

- ①普及啓発・本人発信支援
- ②予防
- ③医療・ケア・介護サービス・介護者への支援
- ④認知症バリアフリーの推進・若年性認知症のかたへの支援・社会参加支援

報告者氏名:舟引 明日香

佐用町 認知症施策全体図

	事業内容
①普及啓発・ 本人発信支援	<ul style="list-style-type: none">・ 認知症サポーター養成・ 世界アルツハイマーデー及び認知症に関するイベント等の普及系活の取組の実施・ 相談先の周知・ 認知症のかた同士が語り合う「本人ミーティング」の実施等を通じた本人の意見の把握、施策の企画・立案、評価への本人視点の反映
②予防	<ul style="list-style-type: none">・ 認知症に関する調査研究の推進及び高齢者などが身近に通うことができる「通いの場」などの充実や「通いの場」等におけるかかりつけ医・保健師・管理栄養士などの専門職による健康相談などの認知症予防に資する可能性のある活動の推進
③医療・ケア・ 介護サービス・ 介護者への支援	<ul style="list-style-type: none">・ 医療・ケア・介護サービス →認知症地域推進員の活動の推進 →認知症初期集中支援チームの活動の推進・ 認知症の特性を踏まえた介護サービスの提供・確保・ 介護者などへの支援 →認知症カフェを活用した取組、家族教室や家族同士のピア活動
④認知症バリアフ リーの推進・ 若年性認知症の かたへの支援・ 社会参加支援	<ul style="list-style-type: none">・ 認知症バリアフリーの推進 →見守り・SOSOネットワークの構築・ チームオレンジの構築・ 成年後見制度利用促進法や成年後見制度利用促進基本計画にもとづく権利擁護の取組の推進、市民後見人の育成・活用、支援組織の体制整備・ 若年性認知症のかたへの支援・社会参加支援

標題 令和4年度 認知症予防教室（頭と体の健康教室）

平成26年から教室を開始。一般介護予防事業

【令和4年度活動経過】

実施期間：令和4年10月4日～R5年3月14日
（合計21回）
毎週火曜日実施

【参加者状況】

参加人数：29人（うち自習10人）

延べ人数：536人（うち自習175人）

※教室を3回以上経験された受講生は自習グループ。

【教室内容】

		サポーター体制
くもんの学習（テキスト）	くもん学習教材（30分） ・週1回の教室と次の教室までの宿題がある。	2人に対して サポーター1人
自習グループ	自習学習（30分）	5人に対して サポーター1人

・学習の他、いきいき百歳体操（30分）を実施

※教室サポーター：1回教室ごとに8人勤務

内訳：学習5人、体操2人、自習1人

【評価について】

評価時期：10月・3月

評価方法：体力測定・かなひろいテスト

【効果について】

- ・テキストを利用している人の多くの方が維持・向上できていた。
- ・測定値を全員に渡し「現状」を知ること、「維持」していくことが大切だと伝えた。
- ・また継続して運動することを提案。
町内のいきいき百歳体操が40か所あり、住んでいる地域外でも参加できる教室があることを伝えた。

(サポーター向け)

- ・フォローアップ研修として9月に研修を行った。

内容：学習療法センターによる講義

理学療法士によるいきいき百歳体操の方法・体力測定の方法について

(募集方法)

広報・防災無線放送・民生委員会・窓口での案内 等

- ・最後に・・・(来年度に向けて)
- ・対応枠が増えるように教室サポーターを募集する。
- ・多くの人に参加してもらえるように広報活動を継続していく。
- ・受講者向けの理学療法士による体操の指導の機会がない。来年度は理学療法士の指導や体力測定の結果説明の機会を作る。
- ・教室を卒業後、その他の活動へとつなげられるよう情報提供していく。
- ・来年度は教室に参加することで【卒業後どんな生活を送れるようになるりたいか】を最初に目標を立ててもらい、目標に近づける様に支援していきたい。